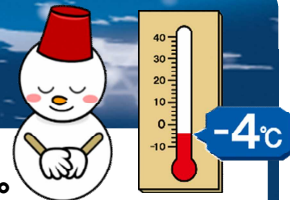


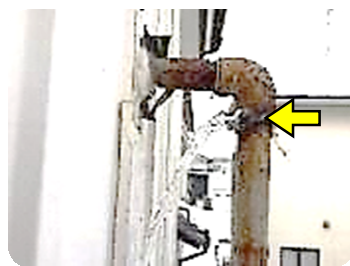
# 水道の凍結対策

水道管は、**気温がマイナス4℃以下になると凍結しやすくなります。**水道管が凍結してしまうと、**水が出なくなるばかりでなく水道管が破裂し漏水するおそれがあります。**凍結させないうちに、対策を行いましょう。



## 凍結しやすいところ

### 1 むき出しになっている・保温材が損傷している



むき出しになっている水道管は凍結しやすい場所です。風当たりの強い建物の北側は特に注意が必要です。また、**保温材が損傷していたり、壁と保温材に隙間がある場合は、そこから凍結する危険度が高くなります。**

### 2 給湯器や給湯器周りの水道管・給湯管



給湯器本体・水道管・給湯管・給水元栓も凍結しやすい場所です。一般的な給湯器には凍結防止機能が組み込まれていますが、**電源プラグを抜くと作動しないため、ご注意ください。**

詳しくは、機器取扱い説明書をご確認ください。

### 3 マンション等の水道メーターとその周辺の水道管



メーターも配管も保温カバー有

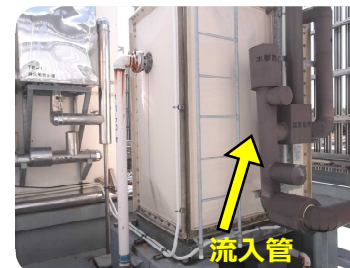


保温カバーが破損している

マンション等の水道メーターと水道管がある場所＝「パイプシャフト」の多くは通風孔や隙間があり、冷風が通るので凍結しやすい場所です。**水道管が露出していたり、水道メーター**

**の保温カバーが破損していたりすると凍結しやすくなります。**

### 4 学校や官公庁・マンション等にある貯水槽周辺の水道管



流入管

貯水槽に水を入れる管（流入管）や各蛇口に送り出す管（流出管）などが凍結すると、**施設全体が水道を使えなくなる可能性があります。**一般家庭に比べ、凍結箇所の特長や解凍するのに時間を要するため、施設への影響時間が大きくなります。

## 凍結を防止するために

むき出しの水道管には、発泡スチロール製の保温材の取り付けが効果的です。ただし、保温材が損傷していたり、外れていたりすると凍結しやすくなりますので、定期的に点検・取替をしましょう。その他、**水道管や給湯器等の水を抜くことができる場合は、あらかじめ水を抜いておくことも効果的です。**「凍結防止ヒーター」を取り付けるとより効果があります。



## 凍結してしまったら

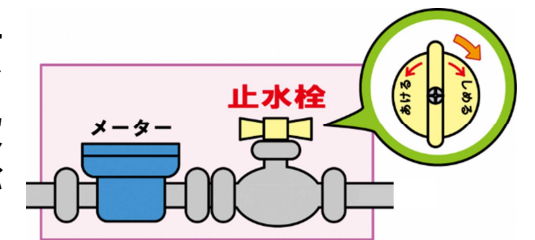
蛇口や水道管が凍結してしまったら、自然に解けるのを待ってください。水道を早く使用したい場合は、蛇口を全開にしてタオル等をあてて、上からぬるま湯（約50℃）をかけてゆっくり解凍してください。**※熱湯をかけると水道管が破裂する恐れがありますので、かけないでください。**



## 破裂の被害を防ぐために

破裂したときにすぐ水が止められるように、止水栓の位置を確認し、操作できる状態にしておきましょう。また、人がいない施設で水道管が破裂すると、長時間気づかないことが多く、周囲が断水するなど迷惑をかける場合があります。倉庫や離れなど普段あまり使わない場所は特に注意が必要です。

大量の水が無駄になるばかりでなく、大切な家屋・家財を水浸しにする危険があります。空家やマンション・アパートの空部屋、普段人がいない施設などで常時水道を使用しない場合、冬期間は止水栓を閉め※、水道管や給湯器の中の水を抜いておくと効果的です。



※1 施設の老朽化により、止水栓を閉めても水が完全に止まらない場合があります。**止水栓を閉めてから蛇口を開き、水が止まっていることを必ず確認してください。**また、水が出続ける場合は止水栓を修理してください。あわせてガス水道局に連絡してください。

※2 水道管は30年ほど経過すると老朽化がすすみ、凍結や震動、水圧変化などで破裂しやすくなります。大切な家屋や家財が水浸しになる前に、水道管の入替をお勧めします。